

安 全 資 料

安全の知識及び態度調査

労働省産業安全研究所編

安 全 博 物 館 協 会

目 次

I は し が き

II 安全知識調査

- (1) 調査の目的..... 1
- (2) 調査の方法..... 1
- (3) 調査の結果..... 2
- (4) 結果よりの考察..... 5

III 安全態度調査

- (1) 調査の目的..... 6
- (2) 調査の方法..... 6
- (3) 調査の結果..... 6
- (4) 結 論..... 8

安全の知識及び態度調査

I はしがき

一般に安全作業の遂行には物的条件の整備はいうまでもなく、人的条件の欠陥を是正することが必要である。この後者については従来個々の作業者の生理的、心理的素質が注目され、種々の調査研究がなされ、相当な成果を挙げてきた。今後共この種の研究が続けて行われることは、安全問題の解決に有力な資料となることはいうまでもない。しかし最近の調査研究によって、この生得的な個人の素質の他に、作業遂行に当たっての知識と技術および態度がより重要であり、また一般的基本的のものであるとする考え方が災害予防の面から見直され主張されるようになった。つまり生得的な素質の上に加えられた後天的な糧の重要性に目を付けたからに他ならない。そしてこれらの方面の事柄は、従来職業指導の一面として或る程度は採り上げられてきたが、まだ安全の面から検討される機会はすくなかったようである。

以上のような必要性が認識されながらも、なお且実際の仕事が行われることのすくないこの安全のための知識と技能および態度の三要素のうち、知識と態度を検討することにしたわけである。従って、ここに紹介する調査は安全における作業者の知識と態度がどうあるべきか、主として企業内教育的要素としての意味およびその方法、企業内人間関係とどう関係あるか等については全て今後の問題として譲り、当面現在の作業者の状態はどんなものであるかを知り、上述の諸問題解決のための手掛りを与えることを目的としたものである。

II 安全知識調査

(1) 調査の目的

巷間に労働災害の原因として物的設備の不備、欠陥によるものは別として、よく使われる言葉に「不注意」とか「誤って」等がある。こうした言葉の使われる場合は、いわゆる「作業行動災害」なる範疇に入れられるような事例に多く災害の原因分析、用語適用に当たってこれ程あいまいなものはない。真の意味の不注意であり、行動の錯誤であるのであればまだしも、そうでない場合が大半であろう。

こうした「不注意」なり「誤って」が生理心理的に起る場合の他、作業遂行上の知識が不足或は不明確であった場合が極めて多いのではないと思われるし、またそれを実証した文献もみられる。安全に半可通は一番禁物である。以上の意味から現在の作業者について安全作業遂行に必要な知識ほどの位持っているかをはしがきに述べたような意図の下に調査したわけである。

(2) 調査の方法

(i) 調査対象

某造船所における船体内業課の鉄機係および機工課所属労働者を対象に調査した。鉄機係については係所属給員の3分の1、機工課については同じく2分の1を任意抽出した。対象人員は次の通りである。

			役付工	平工員	計
鉄機係	罫書		3	10	13
	水圧撓鉄		1	21	22
	鉄機		0	7	7
	ガス溶断		1	23	24
機工課	機械		14	43	57
	仕上		8	30	38
不明			0	13	13
計			27	147	174

(ii) 調査形式

1. 作業者に対し安全知識に関する筆答テストを行った。
2. 問題の形式は別表〔I〕の通り、補字法、正誤法、単式判断法により夫々15、6、10題を作成した。
3. 個々の問題の内容については調査対象作業者の職種、職制、年齢、学歴などになるべく左右されないようなもので、且安全作業遂行に際し基本的であり、また当然作業者として知っているべき一般性のあるものを選定した。またこの選定に当って当該事業場において執行されている作業安全心得などを参考にした。

(3) 調査の結果

(i) 解答所要時間

解答に要した時間は5分間段階に別けて最短20分、最長50分であった。度数分布は次の通りである。

16分 ~ 20分	7人
21分 ~ 25分	39分
26分 ~ 30分	61分
31分 ~ 35分	42分
36分 ~ 40分	19分
41分 ~ 45分	3分
46分 ~ 50分	1分

C = 5 N = 172 (2名少ないのは白紙の者を除いたため)

平均所要時間 (M) 29.7分

標準偏差 (δ) 5.6分

M±1.5σ……(全員の86%)……21.3分～38.1分

(ii) 問題別解答の分析

各問題についての正解率は次の通りである。

問題別正解率表

問題番号	I	II	III
1	66	93 ※	78
2	78	83	73
3	62	52	56
4	91 ※	59	87 ※
5	87 ※	79	90 ※
6	62	60	84
7	78		59
8	27 ◎		43 ◎
9	84		56
10	17 ◎		50
11	89		
12	3 ◎		
13	14 ◎		
14	83		
15	64		

注 ※ 正解率の高いもの

◎ 正解率の低いもの

平均正解率 65%

各問題に対する解答中特に目立った傾向として、表中※印のように当該事業場において安全管理上、教育、PRのよくゆきわたっていると思われるものには正解が多い。これと逆に安全に必須的知識ではあるが、数字的に解答を要求したもののような問題に対する解答には誤答が多いことは、そうした知識がないか、或は実際知っていても表現能力のないか等の理由によるものと思われる。

例をとって説明すれば、梯子の壁面に対する傾斜角度の問題(I-12)は30°～35°に解答したものが多い。この事実は梯子作業時に15°という物理的安定度を知らないこと、角度表現の不正確などが考えられるが、一面人間が実際の梯子作業時において作業危険感が少ない角度は15°より広い角度ではなからうかということが推量される。これは工場設備一般についての人間工学(Human Engineering)の問題として考えられる対象であろう。

またクレーンの吊荷の高さの問題(I-8)にしても、造船所の工場という作業環境の大きいこと、吊荷の比較的大物が多いところでは、作業者が実際に吊荷を行って

いる高さは2mでは頭に衝突感がおこり、3m以上になっているという状態が慣行となつて、それが解答に表現されたといつてよいだろう。

(iii) 職種による知識差

調査対象中職種の違いの最もあると認められるのは郵便と機械の各係のようなのがあるが、郵便は例数が少ないので機械、撈鉄、水圧その他の各係に分類して比較してみた結果、右表の通りであつて、この差については有意の差は認められない。この職種間の知識差が見られなかったということは、出題内容が基本的のものであり、各職種関係に且つて平均にくばられていたということがわかる。また測定結果原票をみても職種別、問題別正解率は概ね同じ傾向を示していた。

係区分	正解率
機 械	68%
水圧撈鉄	64%
そ の 他	63%

(iv) 役付工と平工員の知識差

役付工（組長、伍長）と平工員の知識差について平均得点を比較すると、

役付工 20.9点 (8...5.6)

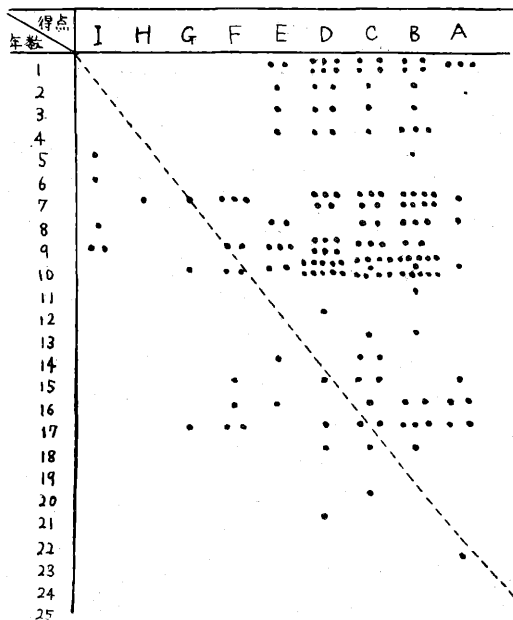
平工員 20.0点 (8...5.6)

註 1問題1点、満点31点

総 員 20.2点 (8...5.6)

となり、両群間に差がみられなかった。

(v) 勤続年数と得点との相関



得点段階	得点範囲
A	29~27
B	26~24
C	23~21
D	20~18
E	17~15
F	14~12
G	11~9
H	8~6
I	5~3

最低得点3点，最高得点29点であり，経験年数に比例して知識が多くなるものとするれば，表中点線の部分に得点スポットが集まる筈であるが，結果は表の通りになった。このことから勤続年数多く，従って役付工級の作業者に低得点の者があるのは安全管理上問題となろう。

(4) 結果よりの考察

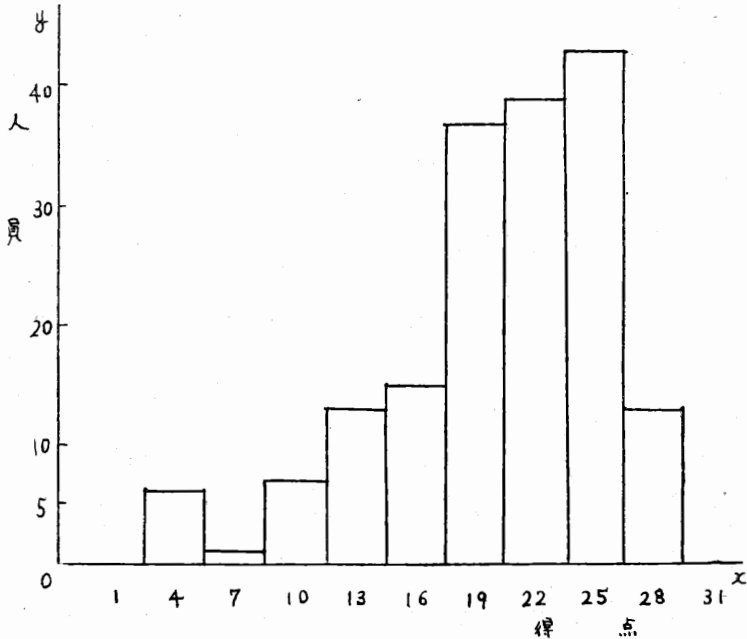
(i) 測定に際し，調査場所で事前に充分指示をしたが，筆答中話し合う者が若干あったためもあるが，総体の平均正答率が65%ということは出題の難易性が適当であったと考えられる。

(ii) この調査は(1)に述べたように予備的な調査であって，問題の内容，出題形式など種々検討の要あるを認めるが，対象となった工場課の所属，作業者の知識程度について傾向は測定できたと考える。

(iii) 今後は調査事業場を異にして，教育訓練の実施程度別，災害発生程度別などの観点より多数追試をし，この種調査と安全作業との質的内容の相関を究明する要がある。

(iv) また，この調査結果だけでも，当該事業場における安全教育資料として有効なものを知りえたと考える。

附表……得点別人員分布



Ⅲ 安全態度調査

(1) 調査の目的

生産場における人間を対象にした管理方式において、古くはテーラー、ギルブレス等によるいわゆる科学的管理法以来、労働科学的知見が応用され、現代においてもその原則は管理方式の一面に適用されて効果をあげつつあるが、その多くは機械的な人間労働及至は作業動作の分析改善のための探究であった。しかし近時ホーソン工場実験を始めとする企業内における人間の集团的相互関係、つまりヒューマンリレーションを始めとする従業員態度、モラルなどの数量的測定が盛に行われるようになった。これは、企業の管理には一つに人間性の重要であることを再認識したからである。

安全においても個々の人間の職業的知識、技能は勿論のこと作業遂行上の態度（心構え）が災害という異常現象の発生と重要な関係を持っているがあることは否めない。この調査は現場作業者が安全についてどんな態度（意見として表われる）を持っているかをみることによって従業員安全教育を行う上の資料をうるためである。

(2) 調査の方法

(i) 調査形式

安全態度に関係ある事項について質問紙別表(2)を以て個々の作業に回答せしめた。この調査に際し測定実務は対象事業場に依頼した。

(ii) 調査の対象

本調査における測定対象者は次表の通りである。

安全態度調査対象人員表

勤続年数	職制		一般工				役付工					
	業種		金工	属業	機械器具工業	電気業	化学工業	金工	属業	機械器具工業	電気業	化学工業
	事業場数		2	4			1	2	3			1
0 ~			11	51	1	2	1	0	0	0	2	
1 ~ 4			171	228	124	25	1	3	9	4	4	
5 ~ 9			977	269	361	36	33	23	35	18	18	
10 ~			788	399	612	77	219	175	118	64	64	
計			1,947	{1,511 947	1,098	140	254	201	162	72	72	

註 機器具工業の一般工の合計は2,458人であるが、そのうち一事業場1,511人については勤続年数別不明のため、各年数欄には計上していない。

(3) 調査の結果

(i) 調査対象者を勤続年数別、職制別（工長、伍長などと一般工員との別）災害

経験の有無別に集計を行ったが、各々に目立った差異は認められず、正相関をなしていた。また業種別にみても同様であった。

(ii) 各質問項目に対する回答チェックは何れか1項目に集中しているのが多い。

(iii) 各質問の項目内容を両端に見るように案分してあるが、回答チェックのモードは稍(上位……イ, ロ, の項目の方)に偏向した。

(iv) 特徴のあるものをみると次の通りである。各質問別に

第1問——(イ)と(ロ)に回答チェックが集り、且ほぼ同数であるのは労働災害の起り方一般、設備的環境の整備状況(フルグループ方式までまだ間隔があるということ)より考えて妥当なところにおちっていると思われる。

第3問——(ロ)がモードになっているのは労働災害が原因であって発生するという必然性のある一面に、数量的にみれば偶然性が結果的には考えられる。こうした意味から運命的な観念が入ってくる余地があり、災害観は理性的判断の他に感情的思想が入ることは人間として当然であろう。

第6問——作業現場で保護具については種々管理上の問題になっているものであって、大部のものは(イ)に回答チェックをしている。しかし観念的には充分わかっていながら、現実の行動にはこの回答通り行っていないように見聞きするのは、安全保護具の性能の問題もあるが、これを装着せしめるための管理内容と使用する労働者意識について解決を要する問題である。

第9問——この質問については(ロ)が多い。さきに当所で行った災害発生時の心理機制調査の結果によれば仕事を急いで行って怪我をした場合がかなり多い。この質問に対する回答チェックも第6問と同様に知識として認識しているが、現実の行動にその程度まで表われていないのではないと思われる。しかしこの場合は安全保護具の例と異なり、仕事を急いで行うことが作業者自身のものである場合もあるが、工程の流れ速度、賃金等の面からの生産管理的要素や直接、間接の上長からの指示(それが具体的であると、抽象的、暗黙的であるとを問わない)によって、第三者的に仕事を急がせる態度を作らせてしまう場合がその多くをしめるのではないかと考える。

第15問以下は役付工に対する質問である。

第16問——(ロ)に回答チェックしたものが半数もいることは、災害の性質によっては事実、対策を立てにくいものもあるが、第18問の内容として(ロ)のよりに部下の安全指導をよりよく行うには、この第16問の態度では一寸不安になる。

その他各質問内容項目に「わからない」という項目をつけたが、これに回答チェックした例は各質問も少ないが、回答百分比約10%を越えているものは第7, 8, 13である。

第7問——これについては罰せられない、文句をいわない、知らない等々の単純なものだけでなく、事業場における安全というもの、位置、評価、管理、慣行等に関連して不可分の複雑なものであり、それがこの質問に対して結局「わからない」という点に

チェックしたものがあつたということではないか。

第8問——この質問においても上記同様に労働災害の責任区分は個々の災害事例についても、或は総合的にいつても、どちらとも明確なものではないと感じとつた者が「わからない」にチェックしたものとされる。

第13問——この質問における「わからない」は、上記第7、8と異なり、上級管理者、監督者が行う安全管理の中での具体的表われに対する回答であるだけに、10%「わからない」者がいることは教育訓練の内容や効果の点に検討を要するものが大いにあるという状態であろう。

(4) 結 論

本調査について結論として

(i) 作業者の安全に対する基本的、共通の態度を知るべく測定した。この種質問紙法によって作業者の真の態度と回答の間に、若干の意識のずれがあるだろうことは考えられるが、大方の動向は握みえた。

(ii) このようなずれがあつたとしても、一応回答されたものを、そのまま認めると、半数の従業員は安全についても良好な態度を持っていると思われる。

(iii) 各質問回答チェックより推して、企業内における安全の教育、PR並びに安全の生産の中における価値付に対し経営管理者側にもっと努力を要する問題があると思われる。

(iv) 回答項目の両端或は「わからない」にチェックしたものがあるが、これ等の者が安全の人的管理上特に問題となるものであつて、個々の質問間の因子分をしてみると、個々人の安全態度の解明に手掛りをえられよう。

(v) 質問項目の検討をし内容を改訂することによって集团的測定に用いるばかりでなく、個人を対象とした臨床的測定にまで発展せしめることができる。

別表 (1) 仕事に関する調査

労働省産業安全研究所

この調査は、われわれの不幸な怪我を、どうしたら防ぐことが出来るかという目的のために行うものです。

皆さんの賃金や昇格など待遇に全く関係がありません。よく考えて書いて下さい。

職符： 職番： 勤続： 年 ヵ月

I 次の文章のなかで下の言葉の中から適当と思われるものを一つ選んで の中に書き入れて下さい。

例： 物さしは物の をはかるものである。

重さ、長さ、色、形、固さ

1. 機械の不具合を調べたり、掃除したり をするときや、歯車の入替えなどをするとき、は必ず機械の運転を止める。

分解, 注油, 混合, 返納, 捜入

2. 品物は平に積み, 必要があれば [] や, 枕をあてがい, またはロープでしぼるなど押しでもくずれないようにする。
車, ベンチ, コード, あて木, 標識
3. [] は決して取りはずしたり, 位置を変えてならない。最初は不便でもなれば苦でなくなる。
スイッチ, カギ, 保護, メガネ, 発生器, 安全装置
4. 重いものを持ち上げるに [] はを落して背をできるだけ真直ぐにする。
肩, 腰, 足, 腕, 頭
5. 残り火, スイッチ, ガスコックなどについては [] を厳重にする。
段取り, 整頓, 準備, 後始末, 掃除
6. 過大なヒューズの代りに銅線などを使用することは [] 出火の大きな原因となる。
爆発, 感電, 引火, 漏電, ショート
7. 仕事中作業場で, 飲食や [] をしない。
うがい, 手洗, せき, 喫煙, 洗顔
8. クレーンで運搬するときは, その荷の高さを地上 [] メートル以上に保つ。
1, 2, 3, 4, 5
9. 仕事の改善とは, 労力や材料のむだをなくし, よい [] のものを作ることで, また作業能率や生産を増加することである。
方法, 品質, 形, 大きさ, 表面
10. もし工場出火のときは [] 非常口にゆく。
押して, 走って, こごんで, 歩いて, 背のびして
11. 防じんメガネを必ず使用して行う作業は, グラインダ, かしめ, 錆落し, [] などである。
ハツリ, 玉掛け, けがき, プレス, 起重機運転
12. 梯子は壁面に対して [] 度の角度でかけるのが最も安全である。
35, 30, 25, 20, 15
13. ワイヤロープのささくれが, 30センチメートルの間に素線数の $\frac{1}{[]}$ 以上あるときは, 新品ととりかえる。
2, 3, 5, 10, 15
14. 一本吊りはワイヤの [] が戻って, 危険である。
長さ, 芯, キズ, ねじれ, 先端
15. 高圧電気は近づくだけでも危い, その碍子は [] 色である。
白, 黒, 赤, 青, 黄

II 次の文章のなかには誤ったものがあります。誤っていると思われるものには、

の中に×を、正しいと思うものには○を記入して下さい。

例： スクーターは小型免許で乗れる。

× 南極は暖い地方である。

- 1. カーバイトや生石灰などは水気のあるところに保管する。
- 2. 平削盤のベツトの中には工具をおいてよい。
- 3. 四塩火炭素の消火器は電気設備の火災に適當である。
- 4. 保護メガネは石けん液でふいたならば曇どめになる。
- 5. スイツチの操作は左手で行うのがよい。
- 6. 電気ドリルは可燃性ガス、または蒸気のあるところで使わない。

III 次の左側の言葉に関係の深い言葉を右側の言葉の中から選んで、その番号を、左側の の中に記入しなさい。

例： 2 イ. 犬 1. 液体

1 ロ. ビール 2. 4足の動物

- | | | |
|--------------------------------------|---|----------------|
| <input type="checkbox"/> イ. 命 | 綱 | 1. 安全率 |
| <input type="checkbox"/> ロ. 照明 | | 2. 整理整頓 |
| <input type="checkbox"/> ハ. 制限荷重 | | 3. 耳せん |
| <input type="checkbox"/> ニ. 疲労 | 労 | 4. 火傷 |
| <input type="checkbox"/> ホ. 騒音 | | 5. 軸受 |
| <input type="checkbox"/> ヘ. 通路の白線 | | 6. 骨折 |
| <input type="checkbox"/> ト. 植物性油 | | 7. 睡眠不足 |
| <input type="checkbox"/> チ. 300:29:1 | | 8. 精密作業 |
| <input type="checkbox"/> リ. 副木 | | 9. 高所作業 |
| <input type="checkbox"/> ス. 鉱物性油 | | 10. 重傷, 軽傷, 無傷 |

別表 (2) 安全に関する調査

労働省産業安全研究所

昭和 年 月 日

この調査は、われわれ働く者がどうしたら安全に働くことができるかを知るために行うものです。

なお、この調査結果は皆さんの身分や待遇に全く関係ありません。自由な気持ちでりのままを書いて下さい。

会社工場名

所属職場

職種

男・女 才

勤続年数

年

現職経験年数

年

月

学 歴

卒業 中退 在学

災 害 歴

有・無

休業

日位 回

(怪我履歴)

〃 〃 〃

次の質問に対する答のうち、自分の考えに合うものについては()の中に✓印を
かりて下さい。項目によっては2つ以上かいてよいものもありますが、原則として一
質問一項目に印をつけて下さい。

1. 作業中に怪我をしないようにするには、人の心構えや動作などと、機械装置や、
床、足場などの諸設備とどちらをよくすることが第一だと思いますか。
 - イ. () まず設備を第一によくすべきだ。
 - ロ. () どちらかといえば設備を先によくすべきだ。
 - ハ. () どちらでもよい。
 - ニ. () 人の心構えや動作をよくすべきだ。
 - ホ. () 設備より人の心構えや動作をよくすべきだ。
 - ヘ. () わからない。
2. あなたは職場で起る怪我は防止できると思いますか。
 - イ. () 完全に防げる。
 - ロ. () 大部分は防げる。
 - ハ. () 半分位は防げる。
 - ニ. () ほとんどできない。
 - ホ. () 全く防げない。
 - ヘ. () わからない。
3. 職場で怪我をしたり死んだりするのをどう思いますか。
 - イ. () 怪我をしたのは全く運が悪かったからだ。
 - ロ. () まあ運が悪かったのだ。
 - ハ. () 運半分だろう。
 - ニ. () 多少運というものが考えられる。
 - ホ. () 運なんていうものは考えられない。
 - ヘ. () わからない。
4. 安全に能率との関係についてどう考えますか。
 - イ. () 安全ということはそのまま能率であると思う。
 - ロ. () 安全は大体能率といえる。
 - ハ. () 場合によっては一致する。
 - ニ. () 安全と能率は一致しないことが多い。
 - ホ. () 安全と能率は反対のものだ。
 - ヘ. () わからない。
5. あなたの職場の怪我は他の職場とくらべてどう思いますか。

- イ. () 多すぎる。
ロ. () 少し多い。
ハ. () この位仕方ながないだろう。
ニ. () 少ない方だ。
ホ. () 比較にならない程少い。
ヘ. () わからない。
6. 防じんメガネ, 安全帽, 命綱など保護具を身につけて仕事することについてどう思いますか。
イ. () わが身の安全を保つため誰れでも着けて仕事すべきだ。
ロ. () なるべくつけて仕事した方がよい。
ハ. () 気をつけて仕事すれば着けなくてもよい。
ニ. () 保護具などつけないで仕事ができればその方が腕がよい。
ホ. () 1人前の熟練工であったなら保護具なんかいらぬ。
ヘ. () わからない。
7. 工場(職場)の安全規則や心得え完全に守られていないのはどういうわけだと思
いますか。
イ. () きびしく罰せられないから。
ロ. () 規則や心得を守らなくても誰も文句をいわないから。
ハ. () 規則や心得を一々守っているとめんどくさいから。
ニ. () 規則や心得をよく知らないから。
ホ. () 全く関心がないから。
ヘ. () わからない。
8. 職場の怪我は誰の責任だと思ますか。
イ. () 会社に責任がある。
ロ. () 会社の上級の幹部に責任がある。
ハ. () 直属の上長に責任がある。
ニ. () 怪我をした本人と上長の責任がある。
ホ. () 怪我の責任は本人が悪いから本人がとるべきだ。
ヘ. () わからない。
9. あなたは仕事のやり方について次の場合どのように思ますか。
イ. () 相当危険であっても早くやり上げればそれが一番いい。
ロ. () 少々の危険はあっても仕事が早くできた方がよい。
ハ. () 場合によっては危険であっても、早くでき方が遅いよりましだ。
ニ. () 仕事が多少遅くなっても危険ではない方がよい。
ホ. () 怪我をする危険がないことが第一で、そのために仕事が遅くなってもか
まわない。

- へ。 () わからない。
10. あなたは会社で行っている安全競争, 講習会, 会議などの安全運動をどう考えますか。
- イ。 () もっと盛んにやってほしい。
- ロ。 () もっとやってほしい。
- ハ。 () このくらいでちょうどよい。
- ニ。 () 時たまでよい。
- ホ。 () わずらわしい感じがする。
- へ。 () わからない。
11. あなたの職場は前とくらべてより安全になったと思いますか。
- イ。 () 見ちがえる程よくなった。
- ロ。 () 相当よくなった。
- ハ。 () まあよくなった方だろう。
- ニ。 () まだよくないところがある。
- ホ。 () ほとんどわからない。
- へ。 () わからない。
12. あなたは今後怪我をしないで通せる自信がありますか。
- イ。 () 絶対にある。
- ロ。 () 余程のことでないかぎり怪我はない。
- ハ。 () 場合によりけりである。
- ニ。 () あまりない。
- ホ。 () 全くない。
- へ。 () わからない。
13. 今までうけた安全の講習や訓練は仕事に役立ちましたか。
- イ。 () 非常に役立った。
- ロ。 () かなり役立った。
- ハ。 () 少し役立った。
- ニ。 () 実際の現場には役立たなかった。
- ホ。 () うけただけで実際にやったことはない。
- へ。 () わからない。
14. あなたは怪我をしないように工夫改善を考えていますか。
- イ。 () 常日頃考えている。
- ロ。 () 時々考える。
- ハ。 () 考えたこともある。
- ニ。 () ほとんど考えない。
- ホ。 () 全く考えたことがない。

へ. () 考えるような仕事がない。

ト. () 無関心。

▲ ここから下の質問は、一般の人はかく必要がありません。伍長、組長、職長など上長の人はかいて下さい。

15. あなたの部下が怪我をしたのはなぜと思いますか。

イ. () ほとんど不注意による。

ロ. () 怪我の半分は不注意による。

ハ. () 本人の不注意にもよるが、むしろ条件が悪かったからだ。

ニ. () 職場の設備や条件が悪かったからだ。

ホ. () わからない。

16. あなたの部下が怪我をした場合、そのありさまを調べたり、予防の方法を考えたりすることができますか。

イ. () 十分に正しくできる。

ロ. () 怪我の有様はわかるが予防の方法をたてることができない。

ハ. () 怪我の種類によって、できるものとできないものがある。

ニ. () 怪我の有様を調べたり、予防法をたてることは不得手である。

ホ. () わからない。

17. 仕事を覚えることと怪我との関係をどう考えますか。

イ. () 誰にでも少々の怪我はつきものである。

ロ. () 怪我をするくらいでないと覚えられない。

ハ. () 怪我をしないのに越したことはないが、怪我をする人が少ない。

ニ. () 怪我と仕事の要領を覚えこむのと関係がない。

ホ. () わからない。

18. あなたは部下の安全を指導していますか。

イ. () 非常によくやっている。

ロ. () 相当よくやっている。

ハ. () 普通

ニ. () 少しやっている。

ホ. () 行っていない。

へ. () わからない。

19. あなたは安全に関する教育の効果についてどう思いますか。

イ. () 非常に大きい。

ロ. () 相当期待してよい。

ハ. () あまり期待できない。

ニ. () 安全は経験が一番大切で教育でわかるものでない。

ホ. () わからない。